

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人 元気の里とから		
事業所名	グループホーム 元気の里		
所在地	河東郡音更町宝来仲町南1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成24年 10月 10日	評価結果市町村受理日	平成24年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="/index.php?action.kouhyou_detail.2010.022.kani=true&amp;JigvosoCd=0194700217-0">/index.php?action.kouhyou_detail.2010.022.kani=true&amp;JigvosoCd=0194700217-0</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年 11月 15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH元気の里は、閑静な住宅街に位置し公園、福祉会館、コンビニ、飲食店、歯科などがあり利便性が良く環境に恵まれています。  
GH前の街路樹の花壇には町内会の方々と一緒に植えた花が咲いていたり、GHの畑では小さいながらも入居者が端正込めて作った作物が植えられています。あさがおやその他のお花も歩行者から見える所に飾っています。

元気の里はケアピクスや散歩を日々の日課として行ない、地域住民の皆さんと日常的に交流しています。また町内会行事に積極的に参加したり、GH行事に参加して頂くなど繋がりを大事にしています。昨年から町内夏祭りの仮装盆踊りに参加して入居者も職員も楽しい一時を過ごしています。

運営推進会議の定期開催や地域住民の皆さんの力を借りた合同避難訓練を行なうなど対外的も積極的に取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

店舗兼住宅として使用していた建物を改築したホームで、住宅街の中に違和感なく町並みに溶け込んでいます。管理者、職員は法人3事業所共通の理念と独自の年度目標を日々のケアに浸透させ、家庭的な落ち着いた雰囲気の中で利用者の人格を尊重し、そのらしさを追求したケアの実践に努めています。また、家事などに利用者が前向きに作業できる場面作りや日課として取り入れているケアピクス(ゆっくりの運動)・散歩を通して意欲を引き出し、健康維持に役立てるなど個々の生活の質の向上に活かしています。職員は優しく、急がせる場面もなく、利用者はゆっくりと自分の出来ることを役割としながら、活き活きと生活している様子が伺えます。地域行事等への参加や合同避難訓練の実施、運営推進会議の定期開催を充実させ、地域住民、家族、利用者、職員との繋がりを深めています。また、住民から古布や野菜、介護用品等を頂いたり、「元気の里に対する災害時の協力をお願い」が掲載された町内防災組織図が作成されており、町内会という温かい人々の輪に支えられている事業所で利用者だけではなく、家族、職員にも安心をもたらしています。管理者、職員は常に利用者が地域の中で暮らし続けられるよう日々研鑽し取り組んでいます。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の事業所の理念があり、玄関や事務所に掲示し管理者と職員は理念を共有し取り組んでいます	法人が定めているケア理念を基に、事業所の年度目標「元気で明るく 細かな気遣い」を掲げ、職員は共有し、利用者の出来ることの継続やその人らしいケアの実現を目指しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、散歩等日々の交流を大切にしながら、町内会行事(清掃、花壇作り、夏祭りへの参加)等関わりに努めています	町内会の一員として行事の参加や町内の役割を担ったり、事業所行事等への参加を通じて密接な連携を図っています。また、町内会15班に「元気の里便り」を回覧したり、ボランティアや実習生の受け入れ等、日頃から地域住民との交流が深められるよう取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事に入居者様と積極的に参加をしながら、認知症の方への理解や方法を伝えていきます。GHに相談に来られる地域の方もあります。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、利用者の状況やホームの様子等報告し情報を開示しています。会議の中での様々な意見を活かすよう努めています	運営推進会議は開催日、時間を確定し、定期的な開催となっており、積極的に参加、協力を得ています。会議では事業所の状況を具体的に示し、委員の意見を運営に活かしています。今年度から職員が交替で書記として参加し、詳細な議事録を作成し、欠席された家族等に配布しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者が運営推進委員になって頂いている為会議の際に情報を伝え、GHでの困難事例の相談をする等連携し協力関係を築いています	役場、十勝振興局、包括支援センターとは様々な機会を通じて情報交換の中で連携を深めています。管理者が包括支援センター運営協議会の委員を引き受けたり、事業所が町内の相談窓口になるなど協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で何が身体拘束になるのか話題にする等身体拘束をしないケアを実践しています	職員は身体拘束についての内容とその弊害を理解しており、日々のケアの中で意識しながら取り組んでいます。日中玄関は施錠せずに、利用者の状態把握に細心の注意を払い、自由な暮らしを支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加するなど学んでおり、不適切なケアから虐待に繋がらない様に注意し防止に努めています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中で成年後見人制度を実際に利用されている方々がおられ職員は理解をしており、会議等を利用して制度の理解をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学を受け入れる等事前に相互理解の上で不安や疑問が減るよう対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様やご家族の意見や要望等を伺う姿勢で対応し、面会時等を利用し汲み取るよう心がけています。	職員は日頃から利用者、家族とのコミュニケーションを大切にしています。家族の来訪時には利用者の状況報告と共に、何でも言って貰えるよう努めています。遠方の家族には電話、手紙、通信等で様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から管理者は職員の意見に耳を傾け運営に反映させています。	管理者は月1回の職員会議や日常的に職員の意見に耳を傾け、ストレスをためないよう働きやすい環境づくりを心がけています。また、職員それぞれが年間目標を設定し、代表者、管理者が定期的に個人面談を行い、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の管理者会議を通して各事業所の状況把握を行っており職場環境や職場条件の整備に努めています。また年一回代表者へ直接提言する機会もあり配慮はされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	おおかた管理者や職員個々の力量は把握しています。法人内の研修や外部研修等に参加にも努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として他同業者との交流を積極的に行ってはいませんが、法人内では研修や交流の機会があります。また十勝GH協議会の研修等を通じて質の向上に向けて取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	職員一人ひとりがご本人の言動や様子に注意を払い、耳を傾けながら信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ話しやすい様な雰囲気を作りながらご家族の不安な事や要望に耳を傾けています。ご家族との日頃のコミュニケーションを大切にしよう職員全員で努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階や入居締結に向けた段階での状況を見極め柔軟に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしているという意識を持ち、日頃から生活の場面で入居者から教えてもらう事があったり学ぶ姿勢で支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心に共に支えていけるよう日頃の面会や行事参加、お便り等で情報交換をしながら関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人に関わる大切な方々が面会を継続できるよう配慮しています。また関係が途切れないように個別に支援できるよう努めています。	地域に暮らす友人等の来訪や今まで通っていた美容院、行きつけの店への買い物等、関係が途切れないよう支援しています。また、利用者の出来ること(のり巻き、ミシンかけ等)が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係には特段配慮しています。日頃からトラブルにならない様な関わり合いや日常生活のあらゆる場面で支え合える環境作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に考え、必要に応じ可能な限り支えるよう心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的にお一人お一人の希望、要望、意向が明確な為、柔軟に意向を傾聴し対応しています。困難な場合は常に本人本位で考え把握に努めています。	日々の関わりの中で声をかけ、傾聴し、本人の思いに添った対応に努めています。把握が困難な場合には常に本人の視点に立って取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や馴染みの生活習慣、環境等の把握に努め、日々の支援に反映出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の体調や精神的な変化等、毎日の情報を共有しながら柔軟に対応できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態を職員全員で毎月把握し、ご本人にとってより良いケアが提供できるようご家族や必要な関係者と相談しながら介護計画に生かすよう努めています。	センター方式を活用したアセスメントを含め、職員全員でのモニタリング(毎月)、担当職員も参加するサービス担当者会議を通じて本人、家族の意見を反映させた介護計画を作成しています。ケース記録に利用者本人の発した言葉を記録し、モニタリングに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を大切に考え、日々の様子やケアの実践・結果を記録し状態の把握に努め情報を共有しています。また介護計画のモニタリングにも活用できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況変化によって生じる、それぞれのニーズに柔軟に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事やGH行事でボランティアの依頼や受け入れを行っています。他町内との合同避難訓練では消防や地域住民、捜索訓練では警察の協力を頂き地域資源の活用を心掛けています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるようにご本人の希望やご家族の希望を大切に柔軟に対応をしています。	受診支援は、家族と相談をしながら対応していません。法人の理事長による住診が月1回行われ全員が受けています。また、系列グループホーム所属の看護師の訪問が週に1度行われ健康管理に役立っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回看護師が来所しています。入居者様の身体変化等の情報を伝え相談しながら適切な受診に繋がる様に支援をし看護師の目線で対応しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を交換しながら安心して治療を受けられるように連携をとっています。入院が長引く事で認知症状が悪化する事を踏まえ早期にGHへ戻れるよう努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について入居時にご家族とは話し合っています。法人の体制で終末期ケアが難しい為事業所で出来る範囲で支えるよう取り組んでいます。	重度化した場合や終末期についての対応は、利用契約時に家族に関係機関の体制が整わず難しい旨説明をし、理解を得ています。ただ今後に向け、法人全体で看取り経験のある管理者を講師に内部研修を行い体制構築に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え職員全員で毎年定期的な応急手当の訓練を行い実践出来るよう努めています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し、昼夜を問わず安全に入居者が避難できるよう訓練を実施しています。全職員が対応出来る様工夫しながら地域との合同訓練も行い協力体制を築いています。	夜間火災想定、水害想定避難訓練、地域合同の夜間想定避難訓練や救命救急講習受講等多くの避難訓練を消防署の指導と地域の協力のもと行われ安全に対する体制構築に努めています。また、利用者の情報をまとめ緊急時に対応できるよう準備しています。	様々な訓練が地域を巻き込んで実施され安全と、安心の構築に努めていますが、更にライフラインの停止に対する冬期間の防寒対策、現在の暖房機器への安全対策等更なる対策を期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、自尊心をに配慮しながら日々の言葉かけやケアを行っています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、声掛けは名字をさん付けで呼んでいます。またトイレへの出入りが直接他の利用者の目に入らぬよう簾の衝立を立て配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にお一人お一人の希望、要望、意向が明確に発言されています。自己決定の場面が多々あり柔軟に対応しています。困難な場合は常に本人本位で考え対応に努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からご本人の意向を伺い、お一人お一人のペースを大切に希望に沿った暮らし方を支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の状況に応じ、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援をしています。また、馴染みの美容室や地域の美容室を活用しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう献立の希望を伺ったり、食事の準備や片付けを一緒に行っています。	献立は利用者の希望を取り入れながら一緒に立て調理しています。カロリー計算を職員が行い、制限のある利用者には主食の量で対応できるようにしています。また、外食や屋外での焼き肉等、楽しみながら食事できるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、お一人お一人の状態に合わせて支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の口腔状態やご本人の力に合わせて口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の支援を行っていますが、おむつの使用を減らす努力までは至っていません。	利用者一人ひとりの排泄記録を取り時間や動作でのパターンを把握し誘導を行いながら、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防や改善の為に飲食物の工夫や運動に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、都度ご本人の状態や希望に添えるよう柔軟に対応しています。	週に最低2回入浴を基本としながら、利用者のその日の状況に合わせて午前入浴も取り入れて支援しています。拒否が強い日には清拭、着替えを行い柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や日中の過ごし方の情報を共有し、休息したり眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法の情報を共有し理解に努めて支援していますが、全職員が全服薬の副作用に至るまでは理解が及んでいません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の状況や状態に合わせた役割の提供や楽しみを取り入れることで、日々張り合いのある生活が送れるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に沿って日光浴や散歩、買い物に出かけています。また、普段行けない場所をご家族や地域の方々と協力して出かけています。	近隣に大きな公園があり利用者の状況に合わせて日常的に散歩に出かけています。散歩コースには2ヶ所、寄贈を受けたベンチが設置され休憩を取りながら楽しんでいます。また、花見、紅葉狩り、菖蒲公園見学等多くの外出をして楽しい時間を過ごせるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の力量に合わせた金銭管理を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける方の支援を希望に沿って行っています。遠方のご家族には手紙のやり取りでご本人の状態をお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が入居者様にとって居心地良く過ごせるよう環境に配慮しています。	居間はエアコンが設置され、温湿度計で管理され居心地良く生活できるように配慮されています。壁には利用者が作成した写真、絵の切り抜きが貼られたり、水槽には9年目になる大きな金魚が泳いでおり楽しいかつ癒される空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの位置を工夫し、思い思いに過ごせるような居場所づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに使い慣れた物を持ち込み、ご本人やご家族と相談しながら居心地良く過ごせるよう工夫しています	各居室の壁には、孫の写真、絵、手紙等が貼られたり、故人の位牌を持参して弔いをしたりそれぞれの工夫をしています。また、吊り戸棚、ベット、暖房機器は事業所で用意をし、居心地良く過ごせるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の不便さはあるが、個々の精神・身体変化に合わせ、設備面を工夫し、自立した生活が送れるよう配慮しています。		